

女性用バレエ衣装の身頃原型

富田 弘美

日常着用する衣服は、半身の胸囲寸法で身頃原型を作図するので、胸囲/2に5～6cmのゆりみが入った身頃原型を使用する。そのために、背丈、ショルダーポイント、サイドネックポイント、アームホール、前衿ぐりの深さなどの形、位置、寸法が定まり易い。

しかし、バレエ衣装では、ゆりみを入れず、原型も使用しないために、形、位置、寸法等が製図上で設定しにくい状況がみられる。そこで、身頃原型の胸囲に含まれている本来のゆりみ量を取除く部位とその量を割り出し、身体にタイトフィットするバレエ衣装の身頃原型の設定を検討した。

その結果、胸囲（BL）と胴囲（WL）上で取除き量の平均値を用いた身頃原型、すなわち、「ゆりみ無しの身頃原型」では、不適切なしわや浮きがなく身体に適合しており、切換えラインの位置もデザイン線としての効果がみられ、バレエ衣装のための身頃原型の設定として有効であることを得た。

キーワード：身頃原型 バレエ衣装 舞台衣装 文化式身頃原型

1. 目的

身頃原型は、衣服を製作する上で最も基になるものであり、呼吸や食事による胃の膨らみなどの生理的な活動に対して半身の胸囲に最低限必要な分量として5～6cmのゆりみが入っているものである。

バレエ衣装のクラシックチュチュ（袖なしでストラップ付きビスチェ型のフィットした身頃）の身頃製図では、前述の身頃原型を使用しない傾向がみられる¹⁾。しかし、バレエのキャラクター衣装等では、袖付きで衿ぐりや衿のリエーションが多様にあり、身頃原型を使用しない場合は、背丈、ショルダーポイント、サイドネックポイント、アームホール、前衿ぐりの深さなどの形態、位置、寸法を製図上で定めることが困難になる。これは、身頃原型が身体の部位と対応しており、パターンを書くにあたって身体形状把握の拠り所になって

いるからである。

身頃原型の設定に関する研究では、胸囲の寸法が大きい場合の原型設定や身頃原型の作図方法の比較、身体への適合性の検討などが見られるが^{2) 3) 4)}、バレエ衣装に関する身頃原型に関する報告はみられない。

そこで、身頃原型の胸囲に含まれている本来のゆりみ量を取除く部位とその量を割り出し、身体にタイトフィットするバレエ衣装製作のための「ゆりみ無しの身頃原型」の製図方法を検討した。

2. 方法

(1) 計測は、平成24年3月20日、中原由美子バレエスタジオにて、被験者は20代前半の女性バレエダンサー5名、計測項目は、身頃原型の製図に必要な背丈・胸囲・腰囲の3項目である。

(2) 身頃原型は、図1のように文化式身頃原型作図方法（胸囲/2にゆりみ6cmを加える。）で被験者5名の胸囲と背丈を用いて製図した⁵⁾。一般

的なバレエ衣装¹⁾を参考にして切換えラインは5本(P1～P5)とし、その位置は文化式身頃原型の胴囲ダーツの中心から立ち上げた。なお、図1に示す胴囲のダーツ量は、文化式身頃原型の作図法と使用し、 $\{(\text{胸囲}/2+6\text{cm}) - (\text{胴囲}/2+3)\}$ に対して前身頃側から14%、15%、11%、35%、18%、7%としたが、後ろ中心の7%のダーツ量は布の厚さ分として扱い、ダーツのように縫わなかった。パネル部分は、切換えラインによって分割されたパーツを前中心からF1、F2、F3、後ろ中心からB1、B2、B3と計6枚にした。

また、文化式身頃原型のアームホール(AH)の底は、胸囲ライン(BL)上から2cm上げて設定した。これは袖なしの場合、この身頃原型の製図方法の割り出しでは、AHが大きくなるからである。

(3) 図2は、胸囲と胴囲の取除き量の位置を示した。取除き量の配分は、BL(バストライン)上のcは0(ゼロ)としてa、b、d、eとした。

なお、胸囲では胸囲/2+6cm(ゆるみ)を前身頃(a:b)と後ろ身頃(e:d)がそれぞれ3:2になるように暫定的に設定した。さらに、胴囲では胴囲/2+3(ゆるみ)をWL(ウエストライン)上では、前身頃と後ろ身頃を1/2量としてf、g、h、i、jとした。これらの取除き量を記入した各パネルは、前中心からBF1、BF2、BF3、後ろ中心からBB1、BB2、BB3とした。

(4) 試着用の身頃原型は、図2の6枚のパネル、をトレースして型紙とし、さらにシーチングにトレースして裁断、縫製した。

(5) 暫定的にゆるみを取除いたシーチングの身頃原型は、被験者5名にフィッティングをして補正を行った。この時の補正条件は、WL水平、引きつりやしわが寄らず、ゆるみがほとんど無くフィットした状態とした。

補正後の身頃は、糸をほどいてアイロンをかけ、図2の身頃原型の前中心、後ろ中心、BL、WLを合わせて補正量を読み取り、身頃原型の製図に記入した。

(6) 読み取った胸囲の取除き量の値を用いてBL、WLの各切換えラインに各取除き量を入れて身頃原型を製図し、シーチングを縫製後、身体の適合

性を(5)の補正条件で観察した。

3. 結果および考察

表1は被験者の計測結果である。被験者の特徴は、被験者3は胸囲、胴囲が小さく、被験者1は、大きいのが全体的に痩身である。

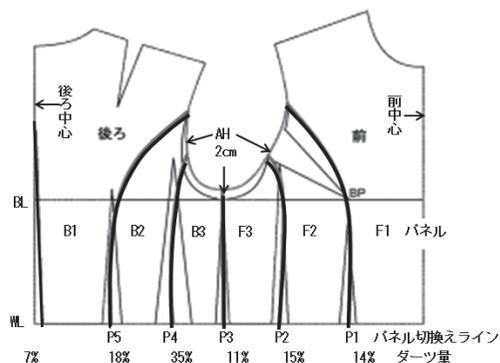


図1 切換えラインとパネルの位置

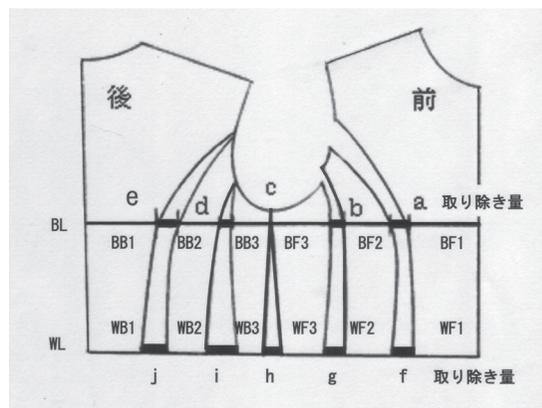


図2 胸囲と胴囲のゆるみの取除き量の位置

表1 被験者の計測値 (cm)

被験者	胸囲 (B)	胴囲 (W)	背丈
1	79.1	64.0	35.6
2	75.3	57.0	36.2
3	72.2	56.8	37.0
4	77.0	62.8	37.5
5	75.8	57.7	37.5

図3は、図2のゆるみを取除いた身頃原型の試着状態である（被験者2）。WL水平、引きつれやしわが寄らないという補正条件で行い、他4名も同様にフィッティングを行った。

表2は、試着の結果で得られた胸囲/2+6（ゆるみ）cmに対するBL上のa、b、d、eの取除き量の値（%）である。取除き量が多かった箇所は、前身頃BP近くのア値5.5%と後ろ身頃の肩甲骨の下のア値4.0%であった。これは、乳房ないし肩甲骨の突出に対して暫定的にa（乳頭部）：b（前脇側）、e（肩甲骨突出下部）：d（後脇側）にそれぞれ3：2のゆるみ量を暫定的に配分したが、a（乳頭部）とe（肩甲骨突出下部）のゆるみが多く、

この配分ではさらに取り除く必要があった。

また、被験者4のc値0.7%は、脇でたるみが生じたので取り除く補正を行った。これは、乳房、肩甲骨の他に胸筋、背筋などの発達状態、肋骨の突出なども関係していると考えられる。

BLのパネル量の合計（BF1、BF2、BF3、BB1、BB2、BB3）は、胸囲/2+6cm寸法から取り除き量（a、b、d、e）を引いたものであり、それは、胸囲/2+6cmに対して86%であった。

表3は、試着の結果得られた実寸{(胸囲/2+6cm)-(胸囲/2+3)}、すなわち、ゆるみ6cmを入れた胸囲/2と3cmのゆるみを入れた胸囲/2の差に対するウエスト（胸囲）ダーツ量を前身頃



図3 暫定的にゆるみを取除いた身頃原型のシーチングによるフィッティング

表2 BLの取除き量とパネル量

(%)

被験者	パネル BB1	取除き量 e	パネル BB2	取除き量 d	パネル BB3	取除き量 c	パネル BF3	取除き量 d	パネル BF2	取除き量 a	パネル BF1	平均の 合計
1	22.1	4.4	9	1.5	10.3	0.2	11	3.1	11.6	6.8	19.1	
2	23.1	3.9	8.2	1.8	11.2	0	14.2	3	10.3	5.7	18.5	
3	22.8	5	9	1	11.2	0	15	3.1	10	4	19.2	
4	23.6	2.9	8.5	1.6	11.2	0.7	13.9	2.7	10.3	5.2	19.3	
5	25.3	3.6	8	1.6	10.5	0	12.8	3.2	10.3	5.5	19.4	
取除き量平均		4.0		1.5		0		3.0		5.5		14.0
パネル量平均	23.5		8.6		8.6		13.4		10.5		19.1	86.0

表3 WLの取除き量とパネル量

(%)

被験者	パネル WB1	取除き量 j	パネル WB2	取除き量 i	パネル WB3	取除き量 h	パネル WF3	取除き量 g	パネル WF2	取除き量 f	パネル WF1	平均の 合計
1	17.5	5.3	9.9	7.7	6.4	1.3	8.1	7.7	12.3	5.9	18	
2	17.4	6.2	10.3	7.3	7.6	1.4	11.2	8.5	7.8	6.4	16	
3	17.1	6.4	10.9	6.9	7.6	1.2	11.2	8.6	7.6	5.9	16.6	
4	15.1	5.6	11.5	5.8	7.6	5.6	10.6	8.1	7.2	6.1	16.9	
5	16.6	5.9	10.5	7.1	6.8	1.6	10.7	8.2	11.2	5.5	15.9	
取除き量平均		5.9		7.0		2.2		8.1		6.0		29.2
パネル量平均	16.7		10.6		7.2		10.4		9.2		16.7	70.8

側から f (14%)、g (15%)、h (11%)、i (35%)、j (18%) の配分で割り出した取除き量の値である。これは文化式身頃原型のダーツ量の割り出し量とほぼ一致していた。また、WL のパネル量の合計 (WF1、WF2、WF3、BB1、BB2、BB3) は、(胸囲 /2+6cm) に対して 70.8% であった。これは、製図の際に胸囲で定める胸囲 /2+6cm の寸法を基にして WL にも同寸を定めて行くからである。

図4の身頃原型は、表2、表3のBL、WLの取除き量 (%) の平均値を用いた身頃原型である。取除き量は、BLで14.0% (前身頃8.5%、後ろ身頃5.5%)、WLでは29.2% (前身頃15.3%、後ろ身頃13.9%) であった。また、パネル量は、BLで86%、WLで70.8%であった。

これらの取除き量とパネル量を使用して製図を行う際に必要な身幅は、胸囲 /2+6cm に対する86.0%の身幅をバストライン上に引き、BLのパネル量 (BF1、BF2、BF3、BB1、BB2、BB3) と取除き量 (a、b、d、e) を計算して配置した。さらに、WLにおいてもパネル量 (WF1、WF2、WF3、WB1、WB2、WB3) と (取り除き量 (f、g、h、I、j) を配置し、この身頃原型を「ゆるみ無し的身頃原型」と称した。

図5は、取除き平均値を用いた「ゆるみ無し的身頃原型」をシーティングで縫製し、試着した状態

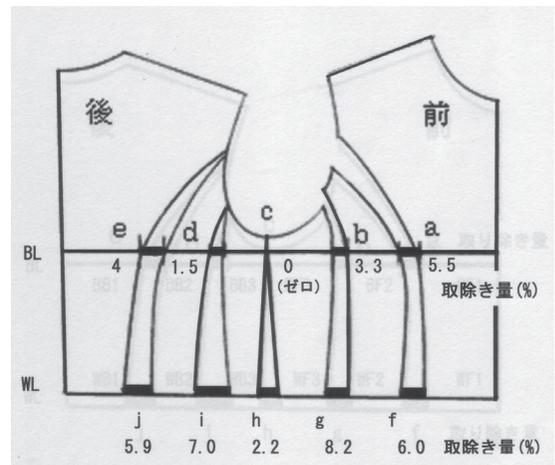


図4 取除き量平均値の身頃原型

である (被験者2)。

その結果、BL、WLにおいて不適切なしわや浮きがなく、サイズの適合していた。切換えラインの位置も身体の稜線 (突出点における面と面の境界線) を通り、デザイン線として効果があった。なお、側面の脇部分のしわは、AHの縫い代が多かったために生じたものであり、後面左の襷じわは、本研究では対象にしていなかった肩傾斜による影響と考えられる。

これらから、タイトフィットしたバレエ衣装の



図5 取除き量平均値による「ゆるみ無しの身頃原型」の試着

製図では、文化式身頃原型からBLとWLにおいて平均取除き量を除いた「ゆるみ無しの身頃原型」を使用することによって、製図上で背丈やショルダーポイント、サイドネックポイント、アームホール、前衿ぐりの深さなどの形態、位置、寸法が定め易くなった。

また、バレエ衣装だけではなく、身体にタイトフィットしている水着やレオタードなどのスポーツウエアにも応用できるのではないかと考えている。しかし、肩甲骨や乳房、および他の身体の突出部位によっては、微調整を必要とする課題が残った。

4. 総括

本来身頃原型の身幅に含まれている胸囲のゆるみ量から、バレエ衣装用としてゆるみを取除く部位と量を割り出し、身体にタイトフィットするバレエ衣装用の「ゆるみ無し身頃原型」の設定方法について、下記のように有効であることを得た。

- ①背丈、ショルダーポイント、サイドネックポイント、アームホール、前衿ぐりの深さなどの形態、位置、寸法の設定が明確になった。
- ②取除き量は、BLでは全体で14.0%（前身頃8.5%、後身頃5.5%）、WLでは全体で29.2%（前身頃

15.3%、後身頃13.9%）であった。

- ③BLのパネル量の合計は86.0%であり、WLのパネル量では70.8%である。いずれも製図の際に身幅の検討に使用することができる。
- ④胸囲（BL）と胴囲（WL）上で割り出した平均値を用いた「ゆるみ無しの身頃原型」では、不適切なしわや浮きがなく適合しており、切換えラインの位置もデザイン線としての効果がみられた。

引用文献

- 1) Clara 編：『バレエの衣装を作ろう』pp.20-21（株式会社新書館，東京，2006）
 - 2) 榎本春栄：「身頃原型についての一考察－特殊体型のための原型－」『和洋女子大学紀要家政系編』42：pp.135-147（2002）
 - 3) 坂元美貴子：「身頃原型作図に関する研究－胸度式作図法と短寸式作図法の比較－」『香蘭女子短期大学研究紀要』50：pp.183-196（2007）
 - 4) 楠 香代子：「パターン製作における原型の種類と特徴」『戸板女子短期大学研究紀要』第56号：pp.15-20（2013）
 - 5) 三吉満智子：『服装造形学 理論編』pp.129-131（文化学園教科書出版部，東京，2000）
- （受付 2018.3.28 受理 2018.7.6）